



# 元気っ子

No 303 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月はながさわ保育園の運動会へのご参加を頂きましてありがとうございました。雨天による中止を回避することや0歳児からの子どもの運動面における発達を中心にご覧頂く等様々な事情から、初の試みではありましたが、西部体育館での開催とさせて頂きました。本来であれば、時間入れ替え制ではなく、全ての保護者に0歳児から5歳児の全ての競技をご覧頂き、子どもたちの発達を共に喜び合えるような一日にしたかったのですが、依然としてコロナ禍であることや駐車スペースの都合により、これは残念ながら実現できませんでした。今後の課題とさせていただきます。

運動会当日はお子さんの運動面の発達における現在地をご覧頂いたかと思います。年齢別でご覧頂いたのは、お子さんの現在地の前後関係を分かりやすくするためのものです。「ちょっと前まではあんな姿だったなあ」「この先、こんなことができるようになっていくのだろうか」は発達の幅が小さい年齢が一番見やすくなります。乳幼児期の発達は環境を通して行われるものです。お子さんの心情、意欲が湧きたつような環境構成の中でこれからも保育をさせていただきます。どうぞご家庭でもお子さんの「やってみたい！」が湧きたつような遊びを通して色々なことにチャレンジしてみてください。

また、今回の競技に盛り込まれていた、子どもが選択をする姿もご覧頂いたかと思います。練習では選ばなかった一番難しいものに挑戦した子、大勢の観客の中だったこともあり、逆に一番簡単なものを慎重に選んだ子、様々だったと思います。プログラムにも書かせて頂きましたが、この選択した結果は何を選んだとしても大正解だと思って頂いて良いと思います。なぜなら、一番大切なのは、この選択をする際の心の葛藤・プロセスの部分です。子どもの心の中に色々な感情が渦巻いて選んでいるのだと思います。その中で結論を出し、「自分はこれにする！」と自己決定できた姿こそたくさん誉めてあげて欲しいと思います。このことは「子どもの権利条約」の意見表明権の保障とともに、子どもがやがて生きていく社会には必要な能力です。当然、乳幼児期の選択はまだ見通しもなかったり、幼稚な選択だったりもしますが、選択は繰り返す中で、その質が上がっていくものです。きっと将来、様々な見通しの中、「自分はこうだ！」と言える大人になり、力強く未来を切り開いていってくれることと思います。

最後にらいおん組のリレーですが、練習から本番に至るまで連日のように「協同思考力」を発揮する場面がありました。子どもたちにとっては相手チームに勝つための「作戦会議」のようなイメージだったと思います。それぞれが勝つためにはどういう順番でオーダーを組むのか、意見を出し合いながら考えたことだと思います。この「仲間たちと意見をすり合わせながら一つの結論を導き出す」という能力は、これからの時代を生き抜くために絶対に必要な能力です。

「自己決定」「協同思考」これらのことを乳幼児期から育むのは、保育所保育指針にもあるように、近年の研究で、乳幼児期に育む能力は大人になってからの生活に影響が大きいことが分かってきているからです。今後も時代を見通しながら、子どもたちに必要な環境を整えて、保育を楽しんでいきたいと思っています。

